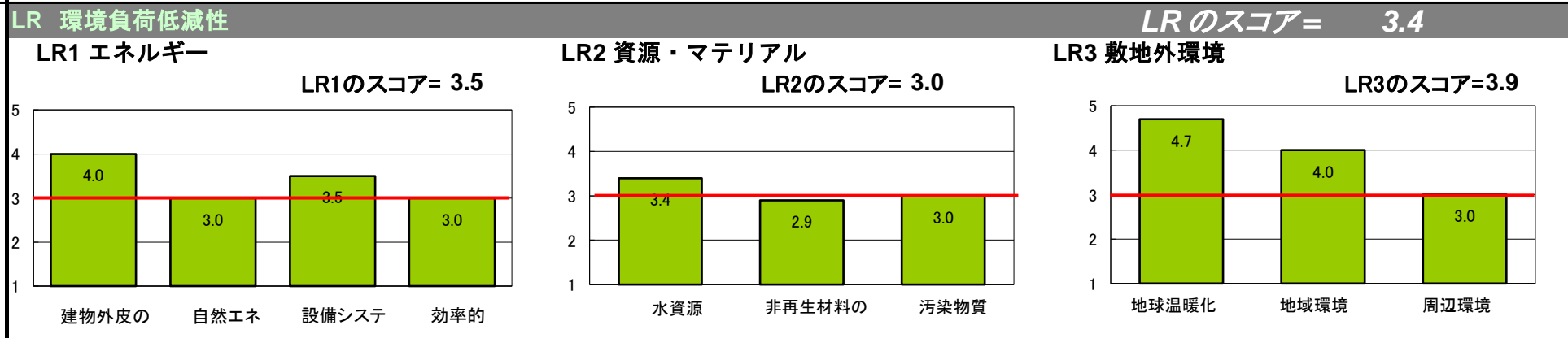
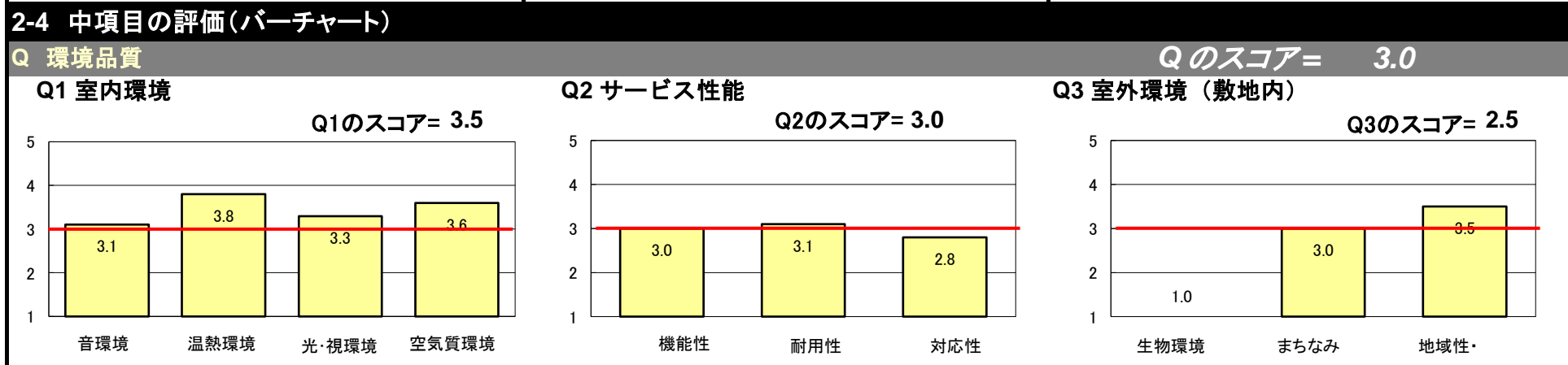
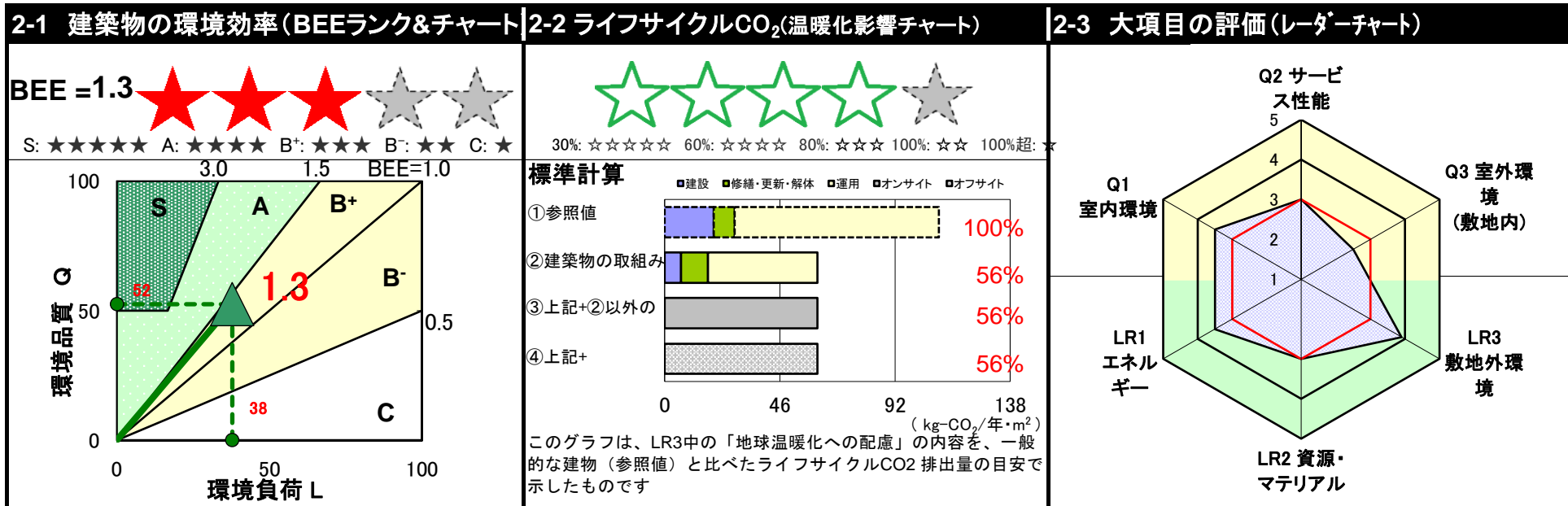


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコト羽根東町二丁目	階数	地上13階
建設地	愛知県岡崎市羽根東町二丁目1番4、1番5、1番6、1番7	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	164人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年9月11日
敷地面積	1,478 m ²	作成者	嶺澤 健二
建築面積	327 m ²	確認日	2020年11月24日
延床面積	3,244 m ²	確認者	成瀬 德行



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>4.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>15.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>2.9</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり				-	-	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	-	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00		-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	-	-		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.13		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.13		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.27		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.27		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30		-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	評価ポイント4	-	4.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			外皮平均熱貫流率(UA値)0.87以下	3.0	4.0	0.33		-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			住宅瀬能評価の断熱等級4	3.0	3.5	0.33		-	-	3.5
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	-	-		-	-	
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器・節湯機器等使用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.9	0.63		-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②		-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自		3.0	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出量 概算56%	-	4.7	0.33		-	-	4.7
2 地域環境への配慮				0.3	4.0	0.33		-	-	4.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器なし	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			風通しに配慮し、敷地外への熱的影響を低減	-	4.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場、駐輪場等、適切なスペース・導入路の確保。	-	4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭				-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制				-	1.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)リコット羽根東町二丁目

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:15.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコット羽根東町二丁目

計画上の配慮事項	
総合	JR岡崎駅から徒歩圏内にあり、また、国道248号線も近く交通の便が良い。小学校、病院、公園も近く、住みやすい環境にある。子育て環境にも最適。
Q1 室内環境	床スラブは、約230mm～250mmの厚みを確保し、階下への衝撃音の伝わりを軽減。また、中空スラブを採用。強度を落とさずにスラブ自重を軽減、天井に小梁のない広い空間が確保できる。 Lr-45の床材を使用、サッシは遮音等級T-1を使用し、遮音に配慮。 省エネ法 外皮の平均貫流率(UA値)0.87以下、省エネ等級4の断熱仕様とした。
Q2 サービス性能	インターネットの集合一括契約、地上波デジタル放送、BS・CSアンテナから受信する電波(4K・8K対応)の混合配信等情報通信設備の充実。 しっかりしたコンセプトによる内装計画。 耐用年数25～60年の外装素材を使用。
Q3 室外環境(敷地内)	道路反対側境界から建物が離れる様、中央に計画し、採光がとれる様建物を南向きとし、駐車場を確保。 駐車台数に考慮しつつ、なるべく緑地も設ける様配置。
LR1 エネルギー	外皮の熱貫流率0.87を各住戸クリアし、断熱4の断熱仕様とした。 共用部、外構の照明はLEDを使用し、消費エネルギーの低減に配慮。
LR2 資源・マテリアル	節水型トイレや、節湯・節水型水栓を使用、エコジョーズの採用により、水量・ガス量も削減。エコ設備の充実。 接着剤の化学物質排出はないものとする。
LR3 敷地外環境	夏季の卓越風の妨げにならないよう隣地との間隔をあげ、なるべく見付面積が小さくなるようにした。 敷地への進入路を2ヶ所設け、渋滞発生緩和を考慮。 また、敷地内へ個別のゴミ分別収集所を設け、周辺環境へ配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。